

繋ぐ 人と人、市と県と国 そして子どもを未来へ  
 秋田県議会議員 **菅原広二** 主な活動報告

「JR男鹿駅周辺の活性化について」

— [複合観光施設]の整備は、これからスタート!! 市民のプレーヤーとしての参加を期待 —

◎男鹿市全体に、以下のような影響が考えられます。

- 1** JR男鹿線に、新型車両の導入は、夢ではありません。男鹿市民が心一つにしてJRに、働きかけることです。赤字路線だった、五能線に「リゾート白神」が導入されて、10万人の乗客が増えて息を吹き返しました。男鹿線に、このよう車両が導入できれば、五能線以上の効果が期待されます。JR男鹿駅からの2次アクセスをどうするかも課題です。市・JR・観光協会・NPOなど男鹿が一つになって検討することです。
- 2** 野菜・魚の産直市場は、周年の農業・漁業をはかります。特に、栽培漁業の可能性を求めているものです。また、急速冷凍庫により、価格の高い端境期に製品の販売ができます。そして、地元の人達を雇用する食品加工を行い、首都圏のホテル・レストランなどへの販売が可能です。この6次産業化により、新たな産業の創出も期待でき夢がふくらみます。
- 3** NPOや一般市民と観光客とのふれあいの場。観光客は、その地域の人と交流することで、訪れた場所に愛着を感じ、リピーターとなります。この積み重ねから「おもてなしの文化」が育まれます。それが市民全体で行動する、真の観光につながります。



▲活気のあった「ひのめ市」

「若者たちの行動力に感動」 平成27年7月12日

「ひのめ市」が男鹿市船川で開催されました。さびれた船川の「商店街の活性化」をはかるという狙いです。洒落た衣装の親子、普段見たことのない店もありました。買う人も、売る人も笑顔で、とても楽しい時間を過ごしました。「新しい男鹿の到来を感じさせられる」と思うほどの感動でした。「JR男鹿駅周辺の活性化」に、ただちに連動するものです。主催した人達は、年配の人達から若者達まで、心一つにして、よくやってくれました。

「花づくりに燃える若者たち」 平成27年7月12日

秋田県花き生産者大会がおこなわれました。何よりも会場に入って感じたのは、若者が多いことでした。特に、男鹿の園芸メガ団地で菊の生産に励んでいる若者たちと出会い、パワーをもらいました。考えがしっかりしていることにも感心しました。「高齢者の雇用の場を提供したい」「成功事例になって、農業だけでなく地域を活性化したい」などの言葉がバンバン飛び出してきました。夢と希望を持って行動する若者たちと出会い、感動した日でした。



▲男鹿の園芸メガ団地で、菊づくりに頑張る元気な若者達

「里山の美田オーナー」 平成27年6月7日

男鹿市北浦安全寺集落で、田植えが行われました。地域の人達も総出で行われました。この集落は、東北を代表する農村風景と言われております。祖先を敬い、地域の強い絆、自然と共生して生活している人達です。何とかこの「里山の文化」を守っているこの地域を遺していきたいものです。中山間地は大変ですが、モデル地区として、成功事例になって欲しいものです。



▲昔ながらの手植えです。皆が、喜んでくれました。

市町合併10周年 平成27年3月21日

県内の市町村の大合併後に、「市町村合併後の検証」をしたことがあります。上手くいっているのは、2か3の小規模の合併・お互いに特色を持つ・共通の文化を持っていることなどがありました。男鹿市と若美町の合併は、この条件のすべてをクリアしております。なんとこの変革の時に、「この10年間で、飛躍的に男鹿が良くなった」といわれるような市にしたいものです。

野石小学校閉校式 平成27年3月14日

男鹿市立野石小学校の閉校式が行われ、140年の歴史を閉じました。昔は、目の前に八郎瀧が見えたと思います。対岸から昇る朝日が、湖面に反射する美しい光景が目につきます。そして、祖先は、その日の出に手を合わせ、1日の幸せを祈ったことでしょう。この様に、この地は八郎瀧に隣接した「半農半漁」の豊かな地域だったと思います。江戸時代の菅江真澄がこの地で、なまはげ行事の絵を遺していることから、この地の豊かな歴史と文化がうかがえます。



▲「校旗返納」、市長に校長から校旗が返納されました。ジーンとききました。

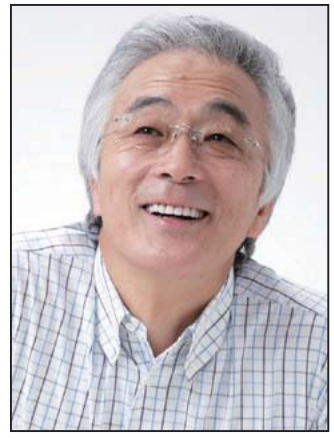
繋ぐ 菅原こうじ 後援会事務所  
 〒010-0511 秋田県男鹿市船川港船川字元浜町193-2  
 tel 0185-27-8401 fax 0185-27-8402  
 info@sugawara-koji.jp  
 http://sugawara-koji.jp/

繋ぐ 菅原こうじ県議会レポート 2015.夏号

ごあいさつ この春の選挙中に、男鹿の漁村に住む笑顔の美しい老人に出会いました。「頑張れ!期待してると!」と輝く笑顔で声をかけられ、大きな元気をもらいました。「こういう老人になりたい」と思わせる好々爺でした。この老人には、地域の強い絆と漁師としての一生の仕事をあり、決して孤独ではありません。そして、老人が住んでいる周辺には美しい北限の「男鹿の椿」が咲き乱れており、その背景には青い海が広がっております。このような男鹿の良さをもう一度見つめ直しつつ、「男鹿の創生」に取り組むべきだと考えます。  
 「地方が大変だ!」と言われる中において、男鹿では、色んな可能性が芽生えてきております。男鹿の未来を創りだすために、謙虚な気持ちと「利他の心」を忘れずに、皆さんと一緒に頑張ります。



「北限の椿」サミットで、花の美しさを再認識。  
 写真は、自宅の庭の花です。身近な美しい花・人の存在を忘れていた!!  
 撮影:菅原 広二



秋田県議会議員 菅原 こうじ

「地方が消滅する」との増田レポートは、あまりにも衝撃的でした。しかし、私達は諦めずに、皆が「地域を元気にするのは自分達だ」という当事者意識と強い気持ちを持たなければならないと思います。  
 地域社会は、様々な問題を抱えております。その課題解決に向けて、「地域のことは地域で解決していこう」という強い気概を持つことが大切であり、自ら解決の糸口を見出そうと行動を起こすこと、地元の仲間と一緒に地域活性化の方策を作り上げることが地方創生だと考えます。  
 男鹿では、このように地域社会を元気にするために活動している方達が沢山おり、私も元気を貰っております。5年、10年先の夢の実現に向かって、お互いに「がっちりスクラムを組んで」頑張りましょう。

# 男鹿市の発展が、秋田県の発展へと繋がる。

## こうじの一般質問概要です。 (平成27年6月定例会)



### 県職員の意識改革について

補助金の申請には、企画力・文章力などが求められますが、個人事業主は、閃きや直観力はあっても、「申請書類の書き方が難しい」との話をよく聞きます。県職員には、単に補助金を支給するだけでなく、**補助金申請時の丁寧な支援や交付後のフォローアップを是非ともお願いしたい**と思います。そして、企業や家業、地域など交付先の成長・発展を支援して頂きたいと思ひます。

私は、公的な補助金を交付することの意義は、「補助を受けた事業者が最終的には税という形で返すことである」とあり、その交付を受けた事業が地域経済に寄与することや、文化振興による交流拡大など、地域全体の利益につながることであり、**地域全体に利益をもたらすこと**であると思ひます。

また、民間事業者の良さは「倒産しないように必死に

頑張る」ことであり、「その必死さの中から良い知恵が出てくることにある」と私は思ひます。

知事は「地方創生は意識創生である」とおっしゃいますが、今一度、新人からベテランまで、県職員の意識改革を図ることが重要であり、そのための実効性のある職員研修の充実・強化を図るべきと考えます。

#### 【知事答弁】

職員には、県民に施策を丁寧に伝え、認識を共有しながら、県民と一体となって取り組んでいくという姿勢が、これまで以上に必要になっており、今後とも、このような気構えを持って仕事に取り組むよう、私自身、職員に繰り返し求めてまいります。



### 地域おこしのための体制づくりについて

農村・漁村の地域おこしを進めるには、そのための体制づくりが重要であります。当事者意識を持ったやる気のある地域の人達がいます。その地域を歩き、やる気のある人達と対話をし、**問題を発見したり、成功の未来図を描いたり、そんなことを一緒に実行できる行政職員、専門のコンサルタントが必要なのではないでしょうか。**地域の人達が、5年後、10年後の将来に夢や希望を持ちながら地域に住み続けることができるようになるためには、このような取組が必要だと考えます。

#### 【知事答弁】

県としては、今後、市町村と一体となった支援体制をさらに充実させ、元気ムラ活動をはじめとする地域コミュニティの活性化を引き続き推進してまいります。



◎満席になった傍聴席。本会議場にて。



### 心のバリアフリー化について

日本の身障者の数は全人口の4.1%を占めており、その方々が観光旅行をする場合、介助する方が少なくとも3人は同行してくるそうです。したがって、介助者を含めた場合の割合は、16%になります。また、高齢者も増えてきておりますが、日常生活において優しい環境を求めるとい意味で、バリアフリーの対象者とも考えられますので、仮にそうした場合、バリアフリーのマーケットは、40%にもなるそうです。

観光地は、歴史的な施設や荒らされていない自然など、バリアだらけの所が多いのです。建築的に変えようと思つと大変なお金がかかるし、その場所本来の良さがなくなってしまうことも多々あります。

「多少不便であっても、自然や文化・歴史的景観は、そのまますべて楽しみたい」という心のバリアフリーがあることに気が付きました。**思いやりや優しさ、人的な介助が**

最も大切なものです。

観光のバリアフリー化が観光だけでなく商業など地域全体の経済を活性化させ、ひいては、文化振興はもとより、教育・福祉などにも寄与するものであると考えます。

#### 【知事答弁】

ヨーロッパでは、石畳の市街地や古い城跡など、文化的見地から物理的にバリアフリー化が困難なところが多いため、健常者が進んで障がい者をサポートする「心のバリアフリー」が浸透しております。

我が国では、物理的なバリアフリーに目を向けがちですが、今後は、皆で支え合うという心のバリアフリー化を推進していくことも必要であると考えしております。



### 観光の役割について

横手市観光協会を訪問した際、横手市内の「年間のイベントカレンダー」を拝見し、驚きました。イベントカレンダーには、地域の行事が全て網羅されており、市民を始め、各種団体が自ら参加する仕組みが作り上げられているのです。その結果、横手市では、大小様々なイベントが一年を通して日常化しているのです。

また、協会自ら収益をあげるための「旅行企画の運営や物産振興事業」も行っており、特に目を引いたのが、特産のブドウジュースの製造・販売であります。さらに、横手市には、「横手の魅力営業課」と「観光おもてなし課」の二つのセクションがあり、名前からして何かやる気を感じさせられました。

横手には、以前からお祭りなどを通して、自ら参加して地域を盛り上げていこうとする文化があり、商工会議所、

観光協会、NPO法人などが連携して、「地域のために」と頑張る方々が多くいるようです。

全国的にも、「観光のプラットフォーム事業」と称して、市・観光協会・商工会・JR・JA・NPOなどによる地域一体となった取組が進められているとのことです。

私は、地域の住民が、**その地域の行事に懸命に取り組むことが「地域みながき」となり、魅力アップにつながる**と考えます。このような取組みが、観光分野だけでなく他の産業にも好影響を与えていくとおもひます。

#### 【知事答弁】

大切なことは、まず地域が、自ら考え企画立案し、行動することであり、その意味から、各市町村長のリーダーシップや観光関係者の意識向上が大きなカギになるものと考えます。



### 船越水道の河口付近の津波対策について

現在は、地上まで土砂が堆積している部分があり、「この状況下で津波が来たらどうなるのか」と地域の住民は不安に思っております。

また、男鹿市と潟上市にまたがる馬場目川の旧河口付近も危険地帯となっており、昨年度から護岸工事が進められております。総工費は約8億円、工期は8年の予定です。あまりにも時間と金がかかりすぎます。

**この船越水道の堆積土砂を陸上掘削し、旧馬場目川の河口付近に運搬し、土で堤防を築けば、工期も金額も圧倒的に少なく済むと思ひます。**堆積土砂量は、概算で30万立方メートルほどと思ひます。粗々の陸上からの掘削が得策と考えます。

参考にすべき事例として、静岡県袋井市に江戸時代に造られた構造物が現存しており、避難タワーを必要としている地域から注目されております。**土砂で築堤し、普段は樹木を植栽し公園としての機能を果たしますが、災害時には避難用として使用されます。**

現在、東日本大震災で被災した地域の復興工事が注目されておりますが、コンクリートで堤防を築いた場合の景観上の問題と、何よりも**「コンクリートの耐用年数は五十年であり、その後、また多額の負担を子孫に背負**

**わせるのか」という問題**もあります。

船越水道の土砂で築堤した場合、耐用年数は何百年も大丈夫と思ひますし、景観上も良く、公園としての機能を果たすとともに、津波に対する警鐘としてのモニュメントとしても大きな役割を担えるのではないかと考えます。



#### 【知事答弁】

県では、これまででも、堆積土砂の影響を含めた津波による浸水被害についての検討を行ってまいりましたが、被害規模の把握や施設整備計画の策定を行うため、より詳細な調査を今年度から実施することにしております。

一方で、堆積土砂の撤去については、防災や景観上の課題等から必要性を認識しており、馬場目川の旧河口付近で進められている護岸工事や、その背後地の森林造成への土砂利用を含め、住民の安全・安心の確保と、効率的な事業実施を検討してまいります。

この他にも以下についても質問が行われました。

- ◎総合的な移住対策について
- ◎海外からの誘客対策について
- ◎人間性を育むためのスポーツについて
- ◎トレイルランなどのアウトドアスポーツの取組について

#### 傍聴者の声



中田 清富 様

#### 《熱い想いを、肌で感じた》

菅原県議の一般質問を傍聴して改めて、一本筋の通った姿勢を貫いているなと感じました。私たち一般市民にも解りやすい質問内容でしたし、元県職員であるため県職員目線での質問をされ、そして県職員を厳しく「宝」として育てていこうとしている姿、それは秋田県民、男鹿市民の笑顔が輝く活力あるまちづくりへと繋がるのではないのでしょうか。

菅原県議の地元を元気にしたいという熱い想いを、肌で感じた貴重な時間でした。これからも秋田県と男鹿市の為に頑張ってください。



笹川 孝子 様

#### 《政治を初めて、身近にとらえた》

あの日、バスから降りる時「よく来てくれたな」と言ってくれて、出迎えてくださったのも菅原県議でした。私は今まで政治に全くと言っていいくらい関心がないままに過ごしてきましたが、この度6月23日の県議会における一般質問を傍聴する機会を下さり、本当にありがたく感謝しております。満席になった傍聴人の方々の前で質問する菅原県議を拝聴しますと熱意あふれる期待感が伝わってまいりました。これからは、私なりに政治をもっと身近なものとしてとらえていこうと思っております。